



5t/10a)の肥効を利用すること、慣行施肥量の窒素、リン酸、カリ成分を50%減肥しても、同等の収量が得られることを確認しました。本調査の4年連用の試験で

県は、環境負荷を考慮した施肥基準の見直しや減化学肥料栽培などの環境保全型農業を推進しています。そこで、慣行栽培の化学肥料を50%削減することを目的に、マメ科緑肥のクロタラリアと鶏ふん堆肥を利用した秋作ブロッコリー栽培の減肥栽培体系を検討しました。

具体的には、クロタラリアを5月下旬に播種(はしゅ)し、草丈130cm程度の頃に細断、その後、圃場(ほじょう)にすき込みます。鶏ふん堆肥は9月上旬の定植前に、元肥と同時に約400g/10aを施肥します。

この結果、県慣行の秋作ブロッコリー栽培の窒素施肥量(N25g/10a)の50%に相当する窒素量をクロタラリアと鶏ふん堆肥(合計でN12・

## 秋作ブロッコリー減肥栽培 緑肥、堆肥の利用で 化学肥料を50%削減

栽培のスケジュール

5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
クロタラリア <sup>1)</sup>						腐熟期間		ブロッコリー							
播種		生育		すき込み <sup>2)</sup>				定植		生育				収穫	

1) 細葉系品種の「ネマコロリ」を使用。

2) 播種後50日の開花時期が目安で、この時期を過ぎると茎が硬くなるため、すき込みの作業が難しくなります。

は、土壌のリン酸やカリの成分蓄積は確認されませんが、ブロッコリー連作地域では定期的な土壌診断で、鶏ふん堆肥由来の成分蓄積傾向の有無を確認することが必要です。

なお、本調査は農水省委託

プロジェクト研究で行いました。  
(長崎県農林技術開発センター環境研究部門土壌肥料研究室 五十嵐総一)